



運動推進 NEWS

まちづくり60年 そして未来へ

令和2年4～8月号 第206号
(令和2年9月15日)

公益社団法人 東京のあすを創る協会

中央区八重洲2-11-7 東栄八重洲ビル6階

Tel 03-3272-0213 Fax 03-3272-1257

Eメール tou-asu@netjoy.ne.jp

TOSOKYO・今

◆新型コロナウイルスの感染拡大 活動休止が続く



4月30日(木)朝、東京駅八重洲改札口辺りは人影もまばら～駅構内の店舗も休業

新型コロナウイルス感染拡大を受け緊急事態宣言が出され、全国的に外出自粛が要請されました。その成果もあり日本においては、爆発的感染(オーバーシュート)は何とか阻止されました。しかしながら、現在も感染第二波の渦中にあり、また全世界での感染者数増加が収まりそうもなく、今後が心配される状況は続いています。

この間、かつて経験したこともない日本国中での巣ごもり生活の日々が続き、経済も長期間にわたり停滞を余儀なくされています。

不要不急の活動が抑制される中、地域での活動、イベントの多くが中止となりました。東創協においても、3月の諸事業の中止に続いて、4月以降の事業も停止状態の中で、5月の理事会も開けず決議省略の書面議決となりました。そのような中、例年6月初旬に開催していた定時社員総会については、時期を遅らせた6月26日に東京都消費生活総合センターで、人数を制限した会議時間の短縮により開催することができました。今後の感染状況が見通せない中、様々な工夫による事業実施を進めていきたいと考えております。

◆令和2年度 活動団体について

近年、運動団体の減少が続いています。令和元年度いっぱい東創協の登録団体から離れたのは、幡ヶ谷生活学校(渋谷区)、滝西生活学校(北区)、いずみの会生活学校(あきる野市)、しあわせ生活学校(多摩市)、瑞徳生活学校(瑞穂町)の生活学校5団体でした。生活会議では、大山MSC(立川市)、大正琴同好会「いずみ」(あきる野市)が登録団体から離れました。一方、新規加入については、北プレ外あそび生活学校(北区)の1団体。さらに、今年度から始めたNPO法人等へ東創協が協賛会員として加入する形での支援については、以前、「運動推進NEWS」でも活動を紹介しました、NPO法人てーねん・どすこい倶楽部(墨田区)、NPO法人青い空-子ども・人権・非暴力(板橋区)の2団体が新規となります。

◆令和2年度定時社員総会を開催

6月26日に開催された総会は、参加者36名、委任状165通を得て、令和元年度の事業報告・決算及び理事の選任について審議が行われました。

◇事業報告・決算報告 毎年秋開催の都民フォーラムについて、これまでの環境問題のテーマから変更し、元年度は「地域活動は、今」として活動団体の取組みについて実施したなどの事業報告、及び決算が承認されました。

◇理事選任 6月26日付で中井敬三氏、高橋芳行氏、田中宏治氏、三浦英美氏を理事に選任する議案が承認されました。就任期間は、令和3年6月定時総会までとなります。

新任理事

中井 敬三	東京都住宅供給公社理事長・前東京都教育長
高橋 芳行	東京商工会議所検定事業部長
田中 宏治	東京都教育庁地域教育支援部長
三浦 英美	(公社)東京のあすを創る協会事務局次長



マスク着用、間隔をあけての着席による総会

なお、村木憲幸理事(NHK首都圏営業推進センター専任部長)につきましては、任期中ですが本人より申し出があり、7月末日付け退任となりました。したがって、役員数は、理事13名、監事2名の15名となります。

◆そして、東京都の人口、初めて1,400万人を突破



3月6日開業の虎ノ門ヒルズ駅



見上げるばかりの虎ノ門ヒルズ・森タワー



山手線の隣に移設した埼京線ホーム

6月12日、「東京都の人口、初めて1,400万人を突破」というニュースが伝えられました。都内の推計人口(5月1日)が**1,400万2,973人**で、前月より2万351人増え、初めて1,400万人の大台を超えました。地域別では、23区が969万6,631人(前月比1万4,543人増)、市部が422万5,504人(同5,515人増)、郡部が5万6,152人(同42人減)、島部が2万4,686人(同335人増)でした。

また、6月5日には、昨年(2019年)の**出生数が86万5,234人**で、統計がある1899年以降最少、死亡数が戦後最多の138万1,098人だったとの発表がありました。差し引きの人口の**自然減は51万5,864人**です。ちなみに、都道府県最少人口の鳥取県が555,663人、県庁所在地の宇都宮市が519,255人、松山市が509,139人ですが、それらの自治体人口に匹敵する日本人が一年間で減少した勘定になります。日本全体では人口が大きく減少している中で、東京都をはじめ大都市圏の人口が増えているため、地方の人口は自然減少に加えて、人口流失による過疎化が一層進んでいることとなります。

◆虎ノ門ヒルズ駅開業

3月に高輪ゲートウェイ駅が新規開業しましたが、今度は地下鉄に新しい駅が6月6日に開業しました。日比谷線の「虎ノ門ヒルズ駅」です。「高輪ゲートウェイ駅」に続き、またまたカタカナが入った駅名です。この新駅は、2014年(平成26年)に竣工した虎ノ門ヒルズ森タワー、2020年(令和2年)1月15日に竣工したビジネスタワーに直結する形で建設されたものです。中核の森タワーは、地上52階・地下5階建てで高さ247mの超高層ビルです。また、6月1日、JR渋谷駅の埼京線ホームが、山手線ホームに隣接する位置に移転し、乗り換えが容易になりました。

◆「コロナに負けるな」の願いを込めて

新型コロナ感染の拡がりもあり、多くの団体の活動が休止を余儀なくされていますが、小平市の「風鈴草子ども食堂」がテイクアウトのお弁当づくりをしていると聞き、訪ねてみました。当日も熱中症が心配される熱波の中でした

が、コロナ禍の中で元気を失いがちな子供たちに、愛情いっぱいのお弁当を食べてもらおうと、メンバーはマスク着用で奮闘していました。メニューは、暑い中でもさっぱり美味しく食べられるよう、味の変化と彩りも豊かな五色丼、さばのあえものでした。大人用とは別に小さな子供用のパック詰めを含め、50食がたちどころに完成。汗も滴り落ちる盛夏の中での奮闘努力でしたが、取りに来て笑顔を見せる子供たちに元気をもらえたようでした。



8月28日、「風鈴草子ども食堂」(小平市) テイクアウトメニュー/当日活動のメンバー

▽ひとこと 新型コロナウイルスの感染初期から既に半年が過ぎようとしています。今後の事態の推移がどう展開するのか、誰にも見通せないことが、一層人々に不安を与えています。一つ歴史に学ぶならば、ペスト菌、スペイン風邪など過去の感染症流行に比べれば、病原体に関する情報が得られ、医療技術も飛躍的に進歩していることに思い致すことが必要かもしれません。それにしても気になるのは、新型コロナウイルス感染拡大に対抗することを戦争となぞらえているリーダーがいること。言うまでもないことですが、ウイルスには人間を害する意思はなく、人間同士の愚かで無益な戦いとは別次元の問題です。そして、ウイルスに“勝つ”というもあり得ないことです。地球に生存する動植物、すべからずの生命体は、共存、共生しています。その関係性は複雑に錯綜していますが、上手く棲み分けして生きていかなければならないのです。今回の感染爆発も人間がスイッチを入れた結果かもしれません。天に向かいて唾すことなかれ、です。毎月発行の運動推進NEWSも4月以降休刊を余儀なくされましたが、やっと「風鈴草子ども食堂」の活動を拝見させていただき、リスタートを切ることができました。以降、世の中の動きとともに、何とか平常に戻していきたいと思ひます。一緒に頑張りましょう。(竜)